

地質標本館の研究と研究支援 ①

地質標本館では、地質調査総合センターの一員として「地質の調査」に関する研究をしています。特に、地球科学の研究の信頼性を保証するための地質標本の保管に責任を持つと同時に、標本の標準化をはかり、科学的価値を高めるために地質標本の分類・記載学的な研究を行っています。この成果をもとに標本カタログやデータベースを作成します。そして、所蔵する地質標本やその科学的な情報が学校教育や「地質の調査」研究に利用されるよう支援を行います。また、地質調査総合センターの岩石・鉱物・化石の研究に必要な薄片の作製や研磨試料の作製などの研究支援も行っています。

標本の保管・登録・管理

地質標本館では、1882年の地質調査所設立から120年以上にわたり収集された膨大な地質試料を保管しています。現在の標本登録数はおよそ14万点に達します。このほかにも大量の未登録標本も有しています。この膨大な試料を整備し、ラベルとともに収蔵庫に保管していきま。標本は登録されると同時に登録番号がつけられ、この登録番号順に棚に入れられていきます。以後、標本を利用する際には、この登録番号を手がかりに標本を探していくため、登録から収蔵にかけての作業は慎重に進めていかなければなりません。



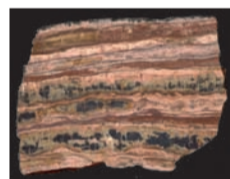
鉱物標本の整理の様子

岩石標本の収蔵庫

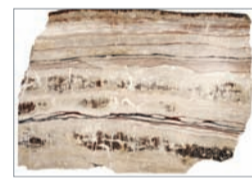
薄片・研磨試料の作製

地質調査の過程で採取される岩石試料を切断研磨し、また30ミクロン（誤差±1ミクロン）の均一な厚み（新聞紙の3分の1くらいの厚さ）をもった薄片にすることにより、偏光顕微鏡を用いた正確な岩石鑑定が可能になります。熟練した試料調製の技術なしには、「地質の調査」研究は成立しません。地質標本館スタッフの高い試料調製技術に支えられて、産総研地質調査総合センターの信頼される地質図の作成が行われています。

そして、製作された薄片類は、岩石標本とともに保管され、将来の調査研究活動にも利用されていきます。



片研磨試料



薄片

地質調査総合センターの代表的出版物である5万分の1地質図幅の例。正確な岩石同定の結果が反映されます。（「真壁」）

登録標本のデータベース化

地質標本館に登録・保管された標本はデータベース化され、インターネットを利用して皆様のお手元でも検索できます。これまで、化石、鉱物、岩石、鉱石の4つの区分の標本データを公開しています。ただし、膨大な登録標本のまだまだ一部のみの公開です。今後さらに充実させていきます。



地質標本館登録標本のデータベースの簡易検索画面（上）と検索結果の表示例（右）。

